

東日本大震災を経験して

宮城県訪問看護ステーション連絡協議会
会長 伊藤 久美子



宮 城 県 の 被 害 状 況

6/6現在

| | |
|--------|--------------|
| ○死亡 | 9, 0 5 8 人 |
| ○行方不明者 | 4, 9 7 9 人 |
| ○避難所数 | 3 7 3 ヶ所 |
| ○避難者数 | 2 4, 0 6 0 人 |

住宅被害

| | |
|--------|--------------|
| ○全壊 | 7 1, 9 8 0 戸 |
| ライフライン | |
| ○ほぼ復旧 | |



県内のステーションの被害状況 ①

(加盟ステーション数74ヶ所／県内92ヶ所)

○ステーション事務所

- ・倒壊 1 st
- ・損壊 6 st
- ・津波に流された 2 st
- ・浸水 7 st
- ・その他 6 st

○ステーションの車

- ・津波に流された 9 st(40台)
- ・損壊 1 st
- ・その他 4 st

○ステーションの備品

- ・パソコン 9 st
- ・コピー機 8 st
- ・FAX 9 st
- ・机 9 st
- ・棚 22 st
- ・その他 11 st



県内のステーションの被害状況 ②

スタッフの被害

| | 本人 | 家族 |
|---------|---------------------|-------------------|
| 死亡・行方不明 | 1 (1st) | 13 (9st) |
| 津波に遭遇 | 29 (12st) | 24 (7st) |
| 怪我 | 3 (2st) | 0 |
| その他 | 2 (2st) | 1 (1st) |
| 自 宅 | ・流された ・浸水 ・損壊 | 29名 35名 28名 |

県内のステーションの被害状況 ③

利用者の被害

| | | |
|-------|------|--------|
| ○死亡 | 134名 | (20st) |
| ○行方不明 | 55名 | (12st) |
| ○関連死 | 87名 | (27st) |
| ○避難所 | 45名 | (13st) |
| ○仮設住宅 | 8名 | (5st) |
| ○転居 | 166名 | (30st) |

被災後の状況

○退職したスタッフ 10st 14名

理由・津波にのまれた後のPTSD

- ・生活困難で他県へ
- ・自主退職
- ・子供の教育のため
- ・夫が亡くなり精神的ダメージ大。6/1から1年間休職

○収益状況

減少したステーション 52st

(平均減少率 約20%)

最大減少率 85%

問題点と課題

- 停電時の医療機器装着者への対応
- ガソリン不足(自治体によって異なっていた)
緊急車両の許可が出ない例が多かった
- 医療材料の不足(物流ストップ)
- カルテ・指示書等必要書類の流出
- スタッフの心のケア
- 利用者の減、未集金

連絡協議会の対応 ①

- 早期に被害状況の把握
- 各関係機関への情報提供
- 会員への支援物資の提供
 - ・ 被害の大きい地域回り(三役) 3ヶ所
 - ・ ブロック毎への物資配布(理事)
- 各機関からの要請の窓口となり、各STへの連絡
- 臨時ニュース発行し、情報を各STに知らせる

連絡協議会の対応 ②

- 各ステーションからの要望の対応
- 被災の大きい地域のステーションとの懇談会の開催
- 2ヶ月目の被災状況調査
- 県内ステーションの情報交換会実施予定
(6月25日)

終わりに

東日本大震災では、津波という想像していなかった被害に遭遇し、多くのことを経験した。

この経験を無駄にせず多くの方に伝えていきたい。

訪問看護の役割として、日頃から災害時の利用者及びその家族のセルフケア能力や、家族のケア能力を高められるようサポートしていく事が重要と痛感した。

各ステーションでの災害対策は重要だが、さらにケース・担当者会議等で災害対策について共有する機会を持つことが必要と痛感した。



ご清聴ありがとうございました